

非鉄金属市況と需給動向

2021年7月（銅、亜鉛、ニッケル、金・白金族）

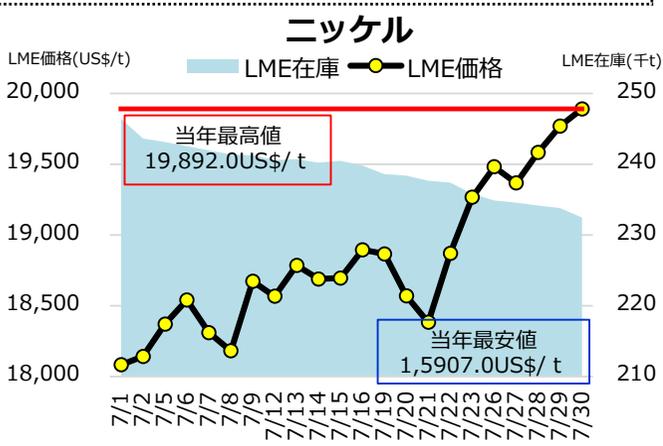
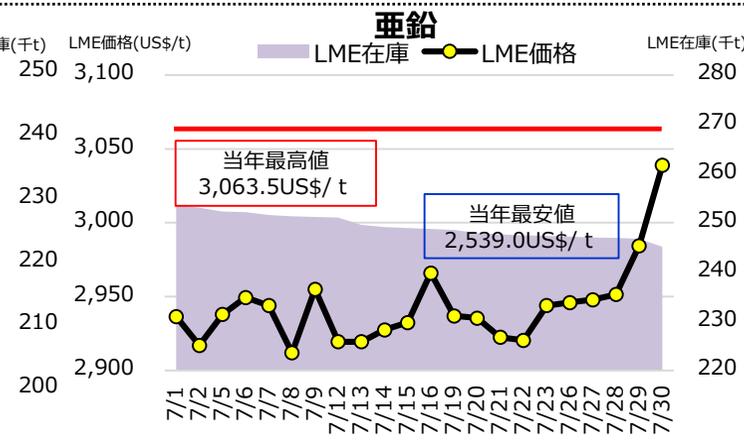
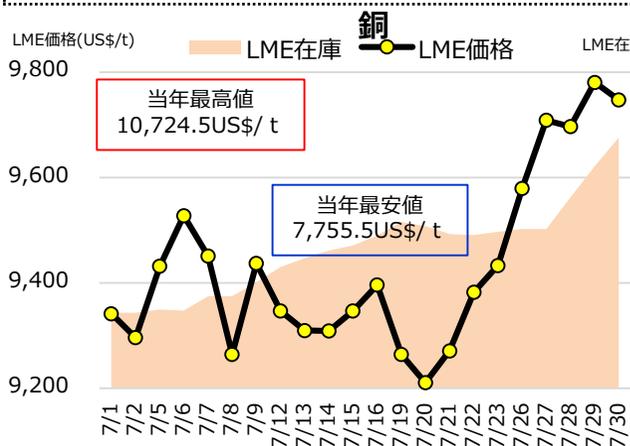
独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構

おことわり:本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行っておりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。

ベースメタル市況動向

コロナ・デルタ株の拡大や中国の自然災害・電力制限、鉱山ストライキ等が重なり各鉱種で上昇基調 ■7月市況動向

- ① **銅、中国の需要減の見通しにより一時下落も、供給懸念などが価格を下支え**：銅は当月9,342.0US\$/tでスタート。5日に中国当局が国家備蓄放出の入札を行ったが、一方で石油輸出国機構（OPEC）とOPECプラスの閣僚会議が開催され、2021年8月以降の原油供給量の拡大を巡って両者の意見が対立、供給不安から原油価格が高騰したことを受けてインフレヘッジの需要が増加し、翌6日に9,528.0US\$/tまで上昇した。しかし8日には、米連邦公開市場理事会（FOMC）で、米国が景気回復目標に達しておらず、金融緩和による物価リスクが上昇した場合には早期の金融緩和縮小を視野に入れる方針が確認されたことを受け、9,264.5US\$/tまで下落した。その後中旬には、中国の6月の生産者物価指数が8.8%と、商品価格の上昇により約13年ぶりの伸び率となった5月の9%よりは若干下回ったものの、依然同国の景気回復に鈍化がみられることや、中国の銅輸入量の減少等が上値を抑え、軟調に推移した。加えて19日は、中国当局が2回目の国家備蓄放出を公告、20日は新型コロナウイルスのデルタ変異株がアジアを中心に流行していることも世界経済に影響を及ぼすとして、当月最安値となる9,211.0US\$/tまで下落した。しかしそれ以降は上昇が継続、26日には中国河南省で発生した記録的豪雨による洪水の影響で供給懸念が生じたほか、同国のインフラ再建需要により、2021年6月以来の高値となる9,580US\$/tに上昇した。加えて、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融緩和政策の縮小時期について、29日に同国の景気回復状況をみながら判断されるとの方針が示されたことも、市場の資金逼迫の懸念を緩和させ、価格を下支えした模様。また同日は、チリのEscondida銅鉱山におけるストライキの可能性も重なり当月最高値の9,781.0US\$/tに上昇し、9,747.5US\$/tで越月した。
- ② **亜鉛、中国雲南省の電力制限で生産削減、高値推移**：6月の米国と欧州の製造業PMIがそれぞれ62.6、63.4と好調だったことから、両者の亜鉛需要も堅調とみられる他、5月から中国雲南省で干ばつによる電力制限が予想以上に長引き、製錬所の生産削減から高値圏で推移したが、月末に急上昇し3,039.0US\$/tで越月した。
- ③ **ニッケル、加Sudbury鉱山のストライキと堅調な需要で上昇基調**：6月から続く加Sudbury鉱山におけるストライキと、最大生産国インドネシアにおける新型コロナウイルスの感染拡大が深刻であることから、9日に2021年2月以来の高値となる18,673.0US\$/tに上昇した。更に、ステンレス、リチウムイオン電池（LIB）需要が堅調で在庫も減少傾向となり、月後半に上昇基調が一層加速し、約7年ぶりの高値となる19,892.0US\$/tで越月した。



需給動向 -銅-

2021年1～4月の世界の銅需給バランス実績は6.9万tの供給過剰

■需要動向

- ① **国際銅研究会（ICSG）、2021年の世界銅供給過剰を予想**：ICSGによる5月発表の2021年年間予測では、鉱石生産21,321千t、地金生産25,167千t、地金消費は25,088千tであり、需給バランスは**2021年は79千t、2022年は110千tの供給過剰**。また、6月21日発表によると、2021年1～4月の世界の銅需給バランス実績は**6.9万tの供給過剰**。
- ② **中国、6月銅地金と銅製品の合計輸入量減少**：中国税関総署の7月13日発表によると、6月の中国の銅地金と銅製品の合計輸入量は対2020年6月比34.7%減の42.8万t。地金輸入量について、2020年は国内需要拡大により増加していたが、2021年6月は5月に引き続きSHFE価格がLME価格より安く裁定取引がなくなったために減少。

■供給動向

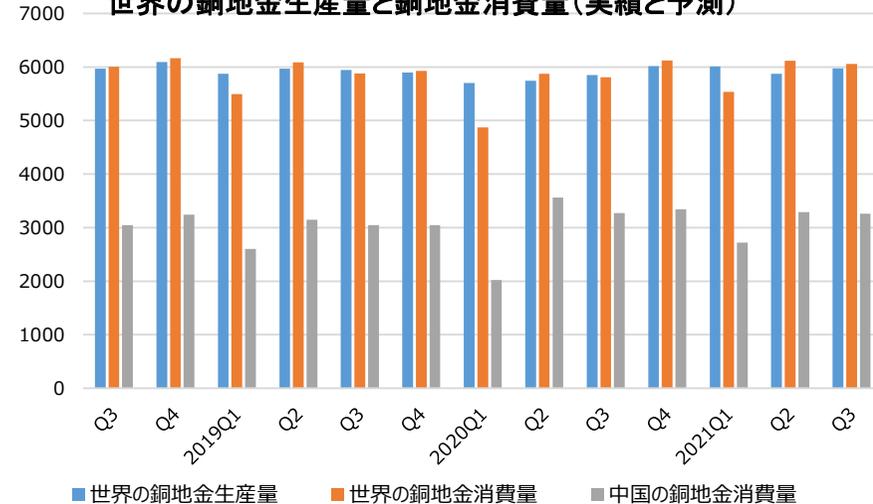
- ① **チリ：国内銅鉱山における労使交渉、Escondida・Andinaにてストライキの懸念**：Escondida銅鉱山において、BHPは労働組合に対し最終提案書を提出し交渉を実施（25日）。Andina銅鉱山ではCODELCOが提示した労働協約を労働組合が拒否、今後、労働局の調停による交渉を継続（29日）。
- ② **カナダ：Sudbury銅鉱山でのストライキ収束へ**：Sudburyニッケル・銅鉱山におけるストライキは7月中旬にValeと労働組合との間で交渉が再開、労働協約案批准により収束（8月3日）。ストライキによる操業停止を受け、Valeの第2四半期銅生産は2021年同期比13.0%減の73.5千t（19日）。

■企業動向

- ① **Antofagasta（チリ）**：チリ中部Coquimbo州Los Perambles銅鉱山では、第2四半期を終え同年同生産計画量には現時点では変更なしも、記録的な降水量不足を受け、この状況は続けば減産の可能性を示唆（21日）。
- ② **PT Freeport Indonesia（インドネシア）**：Halmahera島での銅製錬所建設計画について、中国青山集団との合意に至らなかったことを受けて取りやめとなり、東Java州GresikでのManyar製錬所に係る当初計画を進めると発表。Manyar製錬所では千代田化工建設がEPC業務を受注、Grasberg銅鉱山の鉱石を処理予定（15日）。

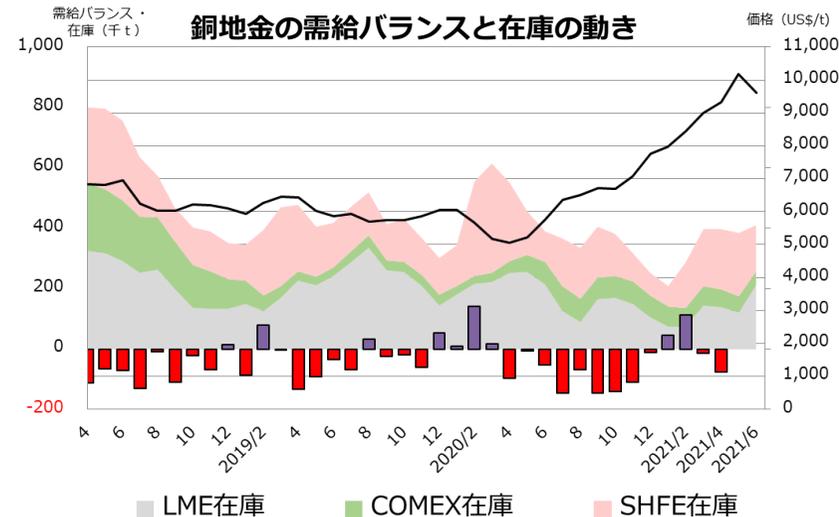
（単位：千t）

世界の銅地金生産量と銅地金消費量（実績と予測）



（出典：調査会社による結果を引用）

銅地金の需給バランスと在庫の動き



※需給バランスのデータは、公表されている2021年4月まで反映。（出典：ICSG）

需給動向 - 亜鉛 -

2020年5月も供給不足継続、中国が国家備蓄を2度放出、価格は月末1か月半ぶりに3,000US\$/t台

■ 需給動向

- ILZSGによると、2021年5月の鉛生産量は1,080.6千t（対前月比2.8%増、29.0千t増）で、EU、アフリカが微減となる中、中国の増加が対前月比21千t増の363千tと大きく、その他ペルーの増加も全体の生産増に影響した。
- 2021年5月の地金生産量は1,149.9千t（対前月比1.1%減、13.0千t増）、地金消費量は1,167.8千t（対前月比0.8%減、8.9千t減）で**17.9千tの供給不足**となった。地金生産量は、中国が雲南省の干ばつに伴う電力不足の影響で生産量が減少し、対前月比16.5千t減（3.1%減）の508.5千tであった。地金消費量は、日本は増加したが、米国、中国、韓国、台湾等で減少した。

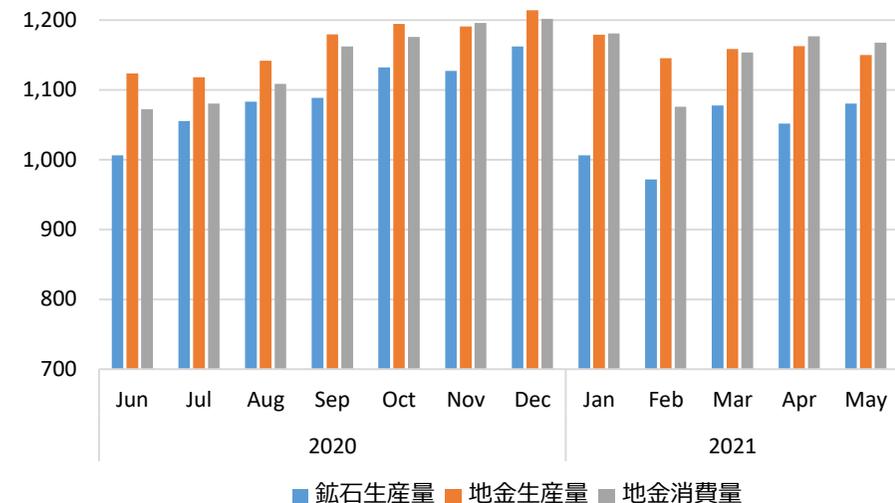
■ 関連需要動向

- 世界の自動車生産台数**：各種報道によると、2021年5月は6,099.1千台と対前月比11.8%減（6,913.9千台）。半導体不足等の影響とみられるが、日本、中国で生産台数が減少した。
- 日本の亜鉛めっき鋼板生産量**：（一社）日本鉄鋼連盟によると、2021年5月は821千tで、対前月（815千t）比で0.7%微増した。

■ 企業動向・その他

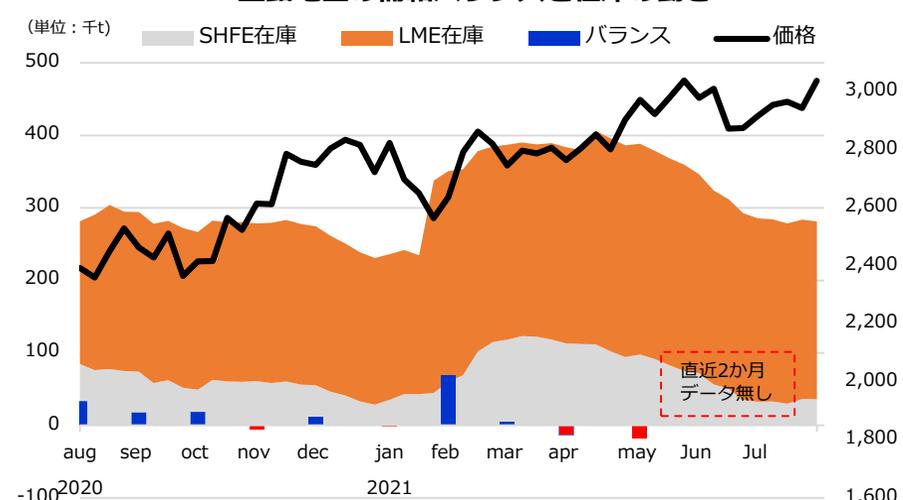
- Glencore（スイス）**：ペルーのIscaycruz亜鉛・鉛鉱山（Lima州）、Yauliyacu亜鉛・鉛鉱山（Lima州）、Contonga銅・亜鉛鉱山（Ancash州）を操業する子会社Los Quenuales社を、ペルー・Austria Dubaz社に1mPENで売却（6月30日）。
- 中国**：5日、国家糧食・物資備蓄局（SRA）が予定どおり第1回目の国家備蓄放出を実施、亜鉛3万tの入札が行われた（8日）。SRAは、今後も複数回に分けて国家備蓄放出を継続的に行う見通しを示し（19日）、21日、第2回目となる国家備蓄の亜鉛5万tの放出を29日に実施すると公告（21日）。
- 中国**：河南省で発生した記録的な大雨による洪水被害は、亜鉛生産にはほとんど影響無かったものの、輸送には一時的な遅延が発生（26日）。

(単位：千t) 亜鉛鉛石生産量、地金生産量・消費量の推移（月別）



(出典：ILZSG)

亜鉛地金の需給バランスと在庫の動き



需給動向 - ニッケル -

中国の上半期粗鋼生産量が最高に、将来のLIB需要を見据えBHPのニッケル事業活発化

■ 需要動向

中国1～6月ステンレス粗鋼生産量が過去最高に：中国の1～6月期におけるステンレスの粗鋼生産量は、1,624万3千tと前年同期比で20.8%増加し、上半期の最高量を記録した。同国政府の新型コロナウイルス景気刺激策による国内需要の拡大にメーカーが生産能力を強化して対応し、2019年上期を13%強上回った。上半期には、政府の税制変更や環境対策が影響し輸出入ともに急増したが、下半期には二酸化炭素排出量の削減を進める中国政府の方針を受け、生産と輸出は減少するとみられている（29日）。

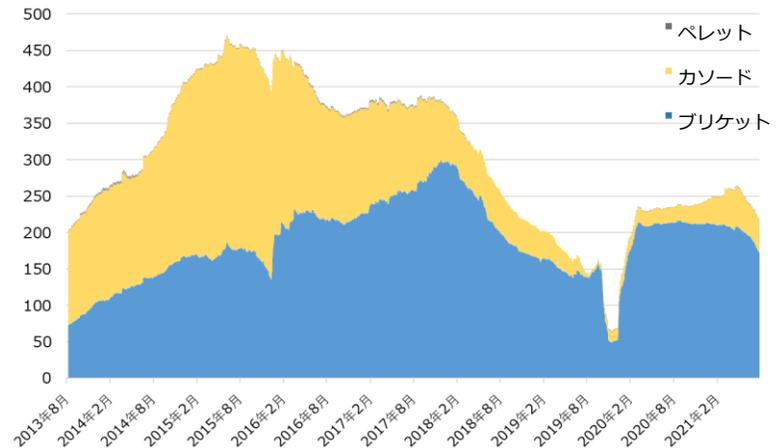
■ 供給動向

- ① **需給バランス：**国際ニッケル研究会（INSG）によると、2021年4月の世界ニッケル需給バランスは**21.3千tの供給不足**となった。
- ② **Koniambo製錬所、操業停止：**ニューカレドニアのKoniambo Nickel SAS(KNS)は、地元活動家による妨害により、Koniamboフェロニッケル製錬所が操業停止になったと公表。同社が実施した採掘活動における入札結果に反対した活動家が7月4日から2週間デモを実施したことで、製錬所の鉱石の調達に支障が出た模様（20日）。
- ③ **BHPとTesla社、ニッケルの供給契約を締結：**BHPが、WA州Nickel WestのニッケルをTesla社に供給。両社はリチウムイオン電池（LIB）サプライチェーンの実現を目的とし、ブロックチェーン技術を活用した原料トレーサビリティや、再生可能エネルギーと蓄電池の積極活用による二酸化炭素排出量削減にも取り組む方針（22日）。
- ④ **加Sudburyニッケル鉱山、Valeと労働組合が暫定合意：**ValeとSudbury鉱山の労働組合（United Steelworkers Local 6500）は、2026年5月31日に期限を迎える5年契約について、暫定合意に至った（8月3日）。

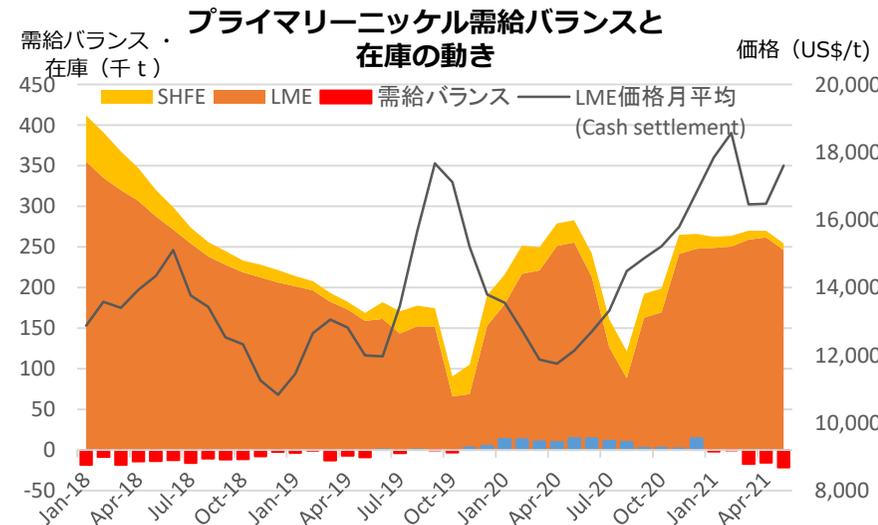
■ 企業動向

BHP（豪・英）：加Noront Resources社を325mC\$で買収することに合意。Noront社は、ON州の未開発大規模鉱床群Ring of Fire地域でEagle's Nestニッケル・銅・PGMプロジェクト及び複数の周辺探鉱案件を進めている（28日）。

（単位：千t） **LMEニッケル在庫推移（形状別）**



（出典：Bloomberg）



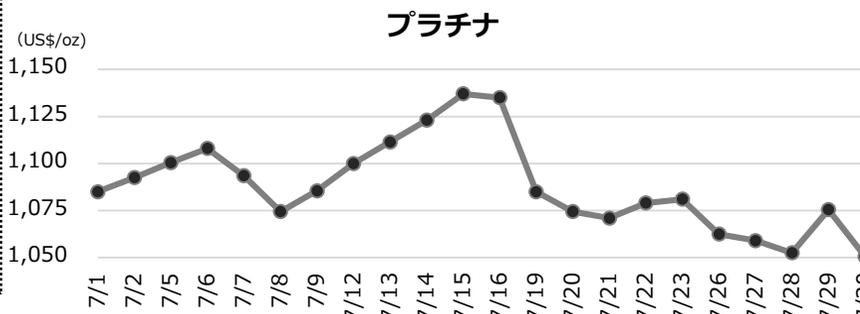
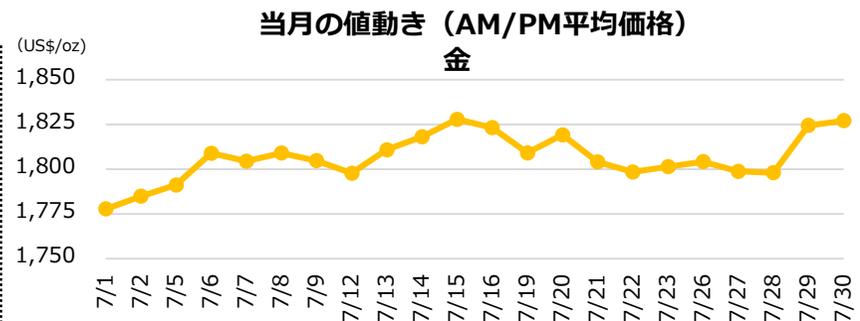
（出典：INSG）

需給動向 -金・白金族-

金は強弱材料交錯で1,800US\$/oz前後で横ばい推移、南アの暴動でプラチナが一時上昇も後半下落

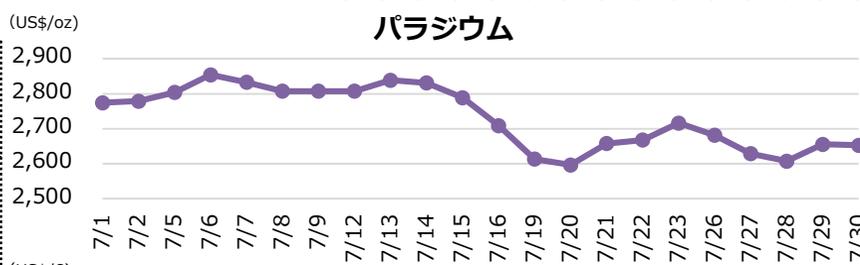
■金市況動向

- ① **米失業率悪化やコロナデルタ株流行で上昇も、強弱材料交錯で横ばい**：当月最安値となる1,777.8US\$/ozでスタート。2日発表の米失業率が5.9%と、予想（5.6%）や前月（5.8%）より悪化、米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げ前倒し観測が後退、コロナのデルタ株の世界的流行等もあり2日以降上昇した。しかし6日以降は、米長期金利の低迷、ドル高基調等の強弱材料が交錯し横ばいとなった。
- ② **米FRBの金融緩和策継続を示し上昇も、米金融緩和の縮小観測等で横ばい**：12日に1,800US\$/ozを割ったことで翌13日に値を戻し、14日、パウエル米FRB議長が当面景気支援を継続する見通しを示したことで上昇に拍車をかけ、15日、当月最高値の1,827.9US\$/ozをつけた。18日、ジョンソン英首相がコロナ濃厚接触者として自主隔離する等コロナのデルタ株感染が世界的に一層拡大する中、ドル高基調から20日に一時上昇したが、その後は米国債10年物利回りが低水準で推移、ドル安傾向となる中、米金融緩和の縮小観測等で上値が抑えられ、1,800US\$/oz台で横ばい推移した。
- ③ **横ばい基調が米景気悪化で一転、上昇**：29日、米第2四半期GDP速報値が6.5%と予想（8.4%）を大きく下回り、失業保険新規申請・受給者数も悪化、ドル安も進行し、物価上昇への懸念等を契機に上昇し、1827.0US\$/ozで越月した。



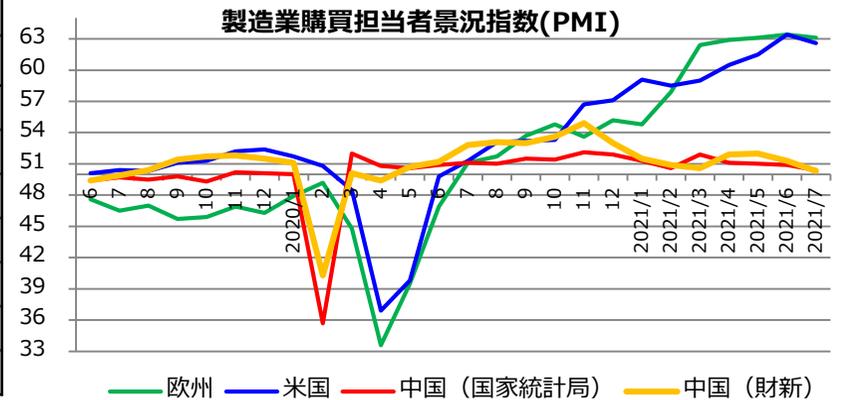
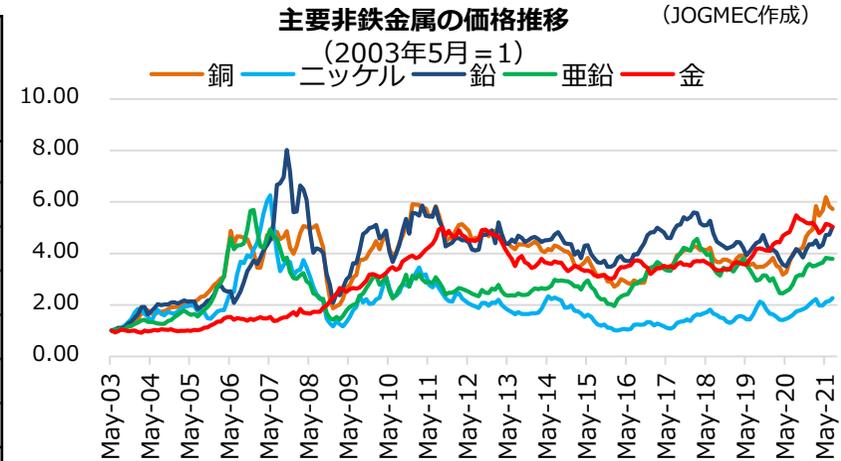
■白金族（PGM）

- ① **プラチナ市況**：当月1,085US\$/ozでスタート、米雇用統計の悪化や株価（NYダウ）下落等を受けて8日にかけて下落したが、その後翌9日以降、南アにて2021年6月、Zuma前大統領が汚職疑惑を巡る法廷侮辱罪で収監されたことに対する暴動がKwaZulu-Natal州等で発生、多数の死者や逮捕者が出たことからの政情不安から上昇し、15日、当月最高値の1,137.0US\$/ozをつけた。しかし週明けの19日、アジアを中心にコロナのデルタ株感染が深刻化していること等から米株式市場が急落、これに伴い一気に50US\$/ozも急落した。その後月後半に値が戻ることはなく、当月最安値の1,050.5US\$/ozで越月した。
- ② **パラジウム市況**：前月に続き、自動車生産台数が半導体の供給不足等が原因で低迷、これに伴い月を通じて価格上昇の要素に欠け、下落基調となった。当月2,774.5US\$/ozでスタート、6日に当月最高値の2854.0US\$/ozをつけた後は2,800US\$/oz近辺で横ばい推移したが、中旬に下落し値を一段下げ、20日に当月最安値の2,596US\$/ozまで下落。その後は2,600US\$/oz台で推移、2,653.0US\$/ozで越月した。



(参考)

		銅	亜鉛	ニッケル	金	プラチナ	パラジウム
		LME現物 (US\$/t)	LME現物 (US\$/t)	LME現物 (US\$/t)	AM・PM平均 (US\$/oz)	AM・PM平均 (US\$/oz)	AM・PM平均 (US\$/oz)
本報告期	期初	9,342.0	2,936.5	18,082.0	1,777.8	1,085.0	2,774.5
	期末	9,747.5	3,039.0	19,892.0	1,827.0	1,050.5	2,653.0
	最高値	9,781.0	3,039.0	19,892.0	1,827.9	1,137.0	2,854.0
		7月29日	7月30日	7月30日	7月15日	7月15日	7月6日
	最安値	9,211.0	2,912.0	18,082.0	1,777.8	1,050.5	2,596.5
		7月20日	7月8日	7月1日	7月1日	7月30日	7月20日
	平均	9,433.6	2,943.0	18,817.1	1,806.5	1,088.0	2,732.5
先物 (7月30日)	3か月	9,775.0	3,033.5	19,885.0	-	-	-
	Dec 1	9,756.0	3,011.0	19,865.0	-	-	-
	Dec 2	-	-	-	-	-	-
2021年 (当年)	期初	7,918.5	2,775.0	17,344.0	1,973.0	1,109.5	2,436.5
	期末	9,747.5	3,039.0	19,892.0	1,827.0	1,050.5	2,653.0
	最高値	10,724.5	3,063.5	19,892.0	1,944.6	1,286.0	2,993.5
		5月10日	5月18日	7月30日	1月6日	2月16日	5月4日
	最安値	7,755.5	2,539.0	15,907.0	1,688.2	1,029.5	2,252.0
		2月2日	2月2日	3月9日	2月26日	1月11日	2月3日
	平均	9,143.5	2,848.3	17,669.6	1,805.7	1,157.9	2,613.5



米国経済	7月の製造業PMI (IHS Markit社発表) は63.1 (前月: 62.6、予測: 62.0) と、前月及び予測をともに小幅に上回った。7月非農業部門雇用者数は前月比94.3万人増 (前月: 85万人増、予測: 87.0万人増) と、前月及び予測をともに上回った。失業率は5.4% (前月: 5.9%、予測: 5.7%) と前月及び予測をともに下回った。
中国経済	7月製造業PMIについて、国家統計局発表は50.4 (前月: 50.9、予測: 50.8) であったほか、財新発表も50.3 (前月: 51.3、予測: 51.0) と、前月及び予測をともに下回った。
欧州経済	7月製造業PMIは62.6 (前月: 63.4、予測: 62.5) と、前月より下回った。